



赤谷プロジェクト地域協議会
(公財)日本自然保護協会
林野庁関東森林管理局

AKAYA
PROJECT
MINAKAMI

●赤谷の森のいま

**「みなかみ町
ネイチャーポジティブ宣言」をしました**
～持続可能な未来を目指して～

みなかみ町 企画課 地域創生係 主幹 **原澤 修**

●地域と繋がる赤谷プロジェクト

環境省信越自然環境事務所
谷川管理官事務所 国立公園管理官 **福元 風夏**

●赤谷の森 環境学習の受け入れについて

ネイチャーガイド **畠野 由佳**

(イヌワシ試験地近くに群生するホオズキ 撮影：赤谷森林ふれあい推進センター)

AKAYANO MORIDAYORI

赤谷の**森**だより

2024.12.1

vol. **57**

AKAYA no MORI

ミニ写真館

今回のテーマ

「カラフルな”秋の三国街道」

(写真：赤谷森林ふれあい推進センター)



ツルアリドオシ



トリカブト



ガズミ



ヤマハッカ



アキノキリンソウ

赤谷の森の夕暮れ
(左)仙ノ倉山、(右)エビス大黒ノ頭)

赤谷の森のいま

「みなかみ町 ネイチャーポジティブ宣言」

持続可能な未来を目指して



みなかみ町
企画課 地域創生係
はらさわ おさむ
主幹 原澤 修

人と自然が共生する町 みなかみ

みなかみ町は、豊かな自然環境を有しており、利根川源流の町です。みなかみ町ではかねてより自然と人が共生する町づくりに取り組んでおり、「赤谷プロジェクト」や「谷川岳エコツーリズム」などを推進してきました。

また、こうした町づくりに取り組む姿が世界のモデルであるとユネスコに評価され2017年(平成29年)6月14日「みなかみユネスコエコパーク」が誕生。

そして、みなかみ町では赤谷プロジェクトをはじめとする自然と共生する取り組みが発展し、昨年から、三菱地所・日本自然保護協会・みなかみ町の3者連携協定による「ネイチャーポジティブプロジェクト」が開始されました。

みなかみネイチャーポジティブプロジェクトとは

ネイチャーポジティブ (Nature Positive) は、自然の損失を止め、回復させるための取り組みです。自然資本を増やすこと、つまり生物多様性を守り、環境を改善することを

目的とし、自然環境の保全と持続可能な社会の構築を目指します。私たちの使命は、この自然の恵みを守り、未来の世代に引き継いで行くこととなります。

3者協定によるみなかみネイチャーポジティブプロジェクトの取り組みには、主に次のような活動があります。

●人工林から自然林への転換・管理が行き届いていない人工林約80ヘクタールを、本来の自然林に戻す活動が行われています。この過程で、イヌワシやクマタカなどの希少な動物の保全も進められています。

●里地里山の保全と再生・みなかみ町の里地里山を対象に、外来種の駆除や荒廃地の復元を通じて、生物多様性豊かな環境を維持する取り組みが行われています。

●二ホンジカの低密度管理…増加す



▲ 町の木 プナ (赤谷の森にて)

る二ホンジカが生態系に与える影響を抑えるため、科学的なモニタリングと効率的な捕獲技術を開発し、生物多様性を保全する対策が進められています。

これらの取り組みは、NBS (Nature-based Solutions) と呼ばれる、自然に根差した社会課題の解決策を実践する形で展開されており、地域の持続可能な発展を目指しています。

ネイチャーポジティブ宣言

令和6年6月14日、みなかみ町は、みなかみユネスコエコパーク登録7周年にあわせて、群馬県内の自治体で初めてとなるネイチャーポジティブ宣言をしました。

生物多様性は地域ごとに異なりませんが、みなかみ町では上信越高原国



▲ ネイチャーポジティブ宣言 (2024年6月14日)



ホソバヒナウスユキソウ

利根川源流
大水上山の雪渓



立公園の谷川岳をはじめ、イヌワシや高山植物など日本を代表する貴重な自然が多く存在します。また、みなかみ町はそういった自然と共生するまちづくりに長年取り組む、2017年6月にはユネスコエコパークにも登録されました。この度、ネイチャーポジティブの実現に向けてさらなる意欲を表明しようと言ったものです。

今後

私たちの使命は、この自然の恵みを守り、未来の世代に引き継いで行くことです。今までたくさんのお力を頂いたこの自然に恩返しするため、私たちは、赤谷プロジェクトをはじめとする関係者の皆さんと連携し、自然と共生しながら地域の発展を図り、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

みなかみ町ネイチャーポジティブ宣言

みなかみ町は、首都圏3,000万人の生活と経済を支える利根川最初の一滴を生み出す源流の町であり、上信越高原国立公園の谷川岳をはじめ、イヌワシやホソバヒナウスユキソウなど、日本を代表する貴重な自然が多く存在しています。これらの素晴らしい自然をまもり、観光業や農林業にいかした「自然と人が共生する姿」が世界的モデルとして評価され、2017年6月14日、「ユネスコエコパーク」に登録されました。

当町は、「みなかみユネスコエコパーク」の理念に基づき、生物多様性の損失を止め、反転させ、自然を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現に向け、産学官民の密接な連携の下、全町一丸となって取り組んでいくことをここに宣言します。

3つの柱

- まもる** みなかみユネスコエコパークにおける自然環境・生物多様性の保護・保全の取組を推進し、人と自然が共生する持続可能な未来の実現を目指します。
- いかす** 生物多様性の保全回復とともに、みなかみユネスコエコパークの自然を活かしながら、地域振興や産業・教育・福祉の振興、防災等に取り組めます。
- ひろめる** 自然と触れ合う豊かな体験を提供するとともに、地域の魅力を広く発信していきます。また、ネイチャーポジティブの実現に向けて、企業・団体等との深い連携を推進していきます。

地域と繋がる

赤谷プロジェクト

環境省信越自然環境事務所
谷川管理官事務所 国立公園管理官

ふくもと ふうか
福元 風夏さん



自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

上信越高原国立公園谷川・苗場地域の国立公園管理官として、今年の6月から谷川管理官事務所に赴任して参りました。国立公園の自然景観を守り、末永く楽しんでもらうために、自然公園法に基づく各種申請の対応や、公園内の巡視、直轄施設の維持管理、外来種対策など各種事業を実施しています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

赤谷プロジェクトの企画運営会議に参加させていただいたことをきっかけに皆様と知り合いました。会議の参加に伴い、地域の自然や取組等について情報交換をさせていただいています。幅広い関係者の皆様が地域の環境を守るために集まっている、非常に貴重でありたい場だと思っております。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

近年課題になっているシカ等の鳥獣対策や、希少種の保全、外来種防除等、地域の生物に関する赤谷プロジェクトの積極的な取組に、機会があれば現地での活動にも参加させていただけたらと考えております。

赤谷プロジェクトへ一言!(何でもOK!)

生物多様性損失の危機が迫っている中、赤谷の森の豊かな生物多様性を守り、生物との共生を図る取組を推進していただき本当にありがとうございます。これからも地域の素晴らしい自然を守り、また地域資源として利用していただくため、今後ぜひ連携していけたらと思っております。



登山者で賑わう谷川岳



苗場山山頂の様子

赤谷の森
環境学習の受け入れについて

ネイチャーガイド
はたの ゆか
島野 由佳



今夏、都内進学校の中学生を受け入れ、赤沢スキー場に環境学習を行いました。参加した学校は、武蔵高等学校中学校、海城中学高等学校、芝高等学校の3校です。赤谷プロジェクト内の課題を生徒に投げかけ、課題解決へ向けて調査手法を考え、実行し、検証するというプログラムです。今夏の課題は【赤沢スキー場の再活用方法を考える】と、【シカの生息状況を把握するためにはどうしたらよいか】でした。生徒たちはフィールドを調査し、時には論文を活用し、試行錯誤を繰り返しながらこの難解な課題に挑戦していました。この挑戦のサポートとして参加しましたが、生徒たちの考え、実行し、検証するというサイクルがまさに探求学習、今求められている学習であると感じました。

みなかみ町には他と比べ物にならないポテンシャルがあると思います。ユネスコエコパークに認定された世界レベルの自然、ネイチャーポジティブへの取り組み、そして赤谷プロジェクトがあります。そのため、生徒たちが求めるあらゆる学習ニーズを汲むことができるのです。さらには学習だけでなくとどまらず、町内にはラフティングをはじめアウトドアアクティビティも充実しています。これだけの好条件を満たす場所が他にあるでしょうか。今後、環境問題に取り組む学校は増えていくことが予想されます。この恵まれた赤谷の森を訪れ学び、遊ぶ学生たちが増えて行くことを願っています。





色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



R6.7.10

上越署赤谷プロジェクト研修

上越森林管理署の方々に茂倉沢を含めたプロジェクトエリア内を案内し、赤谷プロジェクトの取組を紹介。



R6.7.23-8.23

赤谷プロジェクト特設展示ブース設置

夏休み期間に駅を利用する方に向けて、上毛高原駅構内に赤谷プロジェクトの展示ブースを設置。



R6.7.27

赤谷の森自然散策(夏)

ニッコウキスゲの咲く三国山の山頂を目指し、参加者の方と夏の登山を満喫。



R6.8.30

みなかみ町連携会議

現在、赤谷プロジェクトで取り組んでいるシカ捕獲試験等を発表し、みなかみ町の方と今後の課題等について協議。



R6.9.6

利根商業高等学校間伐体験

合瀬エリアで利根商業高校の生徒13名に伐倒方法を指導し、間伐を体験。



R6.9.27-29

みなかみユネスコエコパークアウトドア感謝祭

道の駅「水紀行館」で行われたアウトドア感謝祭にてヒノキの球果を用いたストラップ作り体験を実施。

赤谷のいきもの人気投票

夏休み期間(7月23日~8月23日)に上毛高原駅構内で「赤谷のいきもの人気投票」を実施しました。投票結果は以下の通りになりました~!

1	イヌワシ	98票	4	ツキノワグマ	51票
2	ニホンカモシカ	66票	5	クマタカ	48票
3	のうさぎ	65票	6	ヤマビル	24票

たくさんのご参加ありがとうございました!

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめづらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万ha(10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせください。

イベントのお知らせ

群馬県立自然史博物館 特別展「ぐんまの自然の『いま』を伝える」

- 日 令和7年1月18日(土)~2月9日(日)
- 時 期間内は終日展示しております ※休館日等は博物館のHPをご確認ください
- 場 群馬県立自然史博物館
- 料 博物館のHPをご確認ください
- 申 不要

赤谷の森自然散策(冬)

- 日 令和7年2月8日(土)
- 時 9:00~15:30(予定)
- 場 いきもの村(群馬県利根郡みなかみ町)
- 料 無料 申 要申込 ※1月頃にHP・SNS等でお知らせします

トピックスやイベントの詳細は赤谷センターHPをチェック!

募集中! 赤谷プロジェクト サポーター

赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先 (公財)日本自然保護協会:森本



Let's enjoy in the AKAYA FOREST with us!



赤谷森林ふれあい推進センター

検索



この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※「森のおもちゃの家」内

理事 本多 結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4101

プロジェクト担当 森本 裕希子

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 栗田 喜則

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp